

研究 主題	考えを効果的に表現しようとする力を育成する授業を目指して —視覚的工夫を用いた「書くこと」の学習過程を通して—
----------	--

## 第1学年国語科学習指導案

指導月日 令和3年10月25日

所属校名 宮城県迫桜高等学校

氏名 遠藤 睦実

### 1 単元名 『伊勢物語』を読み、短歌を創作しよう（教育出版 新編国語総合）

### 2 単元の目標

- (1) 本歌取りや見立てなど我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解することができる。 [知識及び技能] (1)オ
- (2) 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] A(1)イ
- (3) 言語がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

### 3 取り上げる言語活動と教材

言語活動 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、表現の仕方を工夫して短歌を創作する。  
(関連：[思考力、判断力、表現力等] A(1)イ(2)ア言語活動例)

教材 『伊勢物語 芥川』（教育出版 新編国語総合）

### 4 単元観

本単元は、高等学校指導要領国語 言語文化2内容 [知識及び技能] (1)オ、及び [思考力、判断力、表現力等] A書くこと(1)イ、(2)アに基づいている。「書くこと」の「学習過程」である「構成の検討」「考えの形成」「記述」「推敲」「共有」に沿って学習活動を行うことで、自分の考えを形成し、効果的に表現する力を育成したいと考える。

本単元の教材『伊勢物語』は、「歌物語」に分類され、和歌を中心として地の文が歌を支える説明的役割を果たす構成となっている。「みやび」を根底に、異性への愛情、親子の愛情、身分を超えた厚情、友情、これらに伴う心の葛藤が鮮やかに描かれ、今もなお人々に読み継がれている作品である。

本単元の言語活動を「短歌を創作する」活動とし、生徒の実態を考慮し現代短歌を創作する。作品の形式は『伊勢物語』同様、短歌を創作するとともに短歌を補足する文章（本単元では「詞書」と称して扱う）を添えて表現し、これによって創作した短歌の世界を読み手に伝わりやすくする効果が得られると考える。

本単元の視覚的工夫として、短歌に詠む素材を収集するために生徒自身が撮影した写真を必要に応じて活用すること、また創作した短歌と詞書を、文書作成アプリケーションを使用して表現することを指示する。撮影した写真を見て表現する内容を検討することで題材や内容についてより身近なところで考えることが可能になり、文書作成アプリケーションを使用して書体や背景などを工夫することによって読み手の視覚に訴えることができ、短歌で表現したことがより伝わりやすくなると思われる。

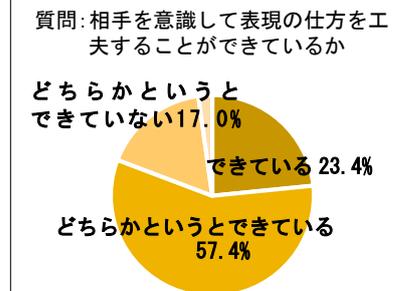
## 5 生徒の実態 [第1年次4組 26名]

活発な生徒が多く、様々な学習活動に積極的に取り組む学級であり、生徒同士気軽に意見交換ができる雰囲気がある。

単元の学習に先立って単元の目標に基づいてアンケートを実施したところ「相手を意識して表現の仕方を工夫することができるか」という質問に80.8%の生徒が「できている」「どちらかというときている」と回答した。元々書いて表現することに抵抗を感じていない生徒が多い中、授業実践Ⅰの学習を経て、生徒がより一層、読み手を意識して書いて表現することを心掛けている表れであると考えられる。

なお、単元で取り扱う領域に関しては、中学校第3学年「B書くこと(1)イ～オ」を受けて、言語活動に関しては中学校第2学年「B書くこと(2)ウ短歌や俳句の創作により感じたことや想像したことを書く活動」を受けて学習活動を行う。本単元では「本歌取り」を取り入れて短歌を創作することとしているが、「本歌取り」に加えて中学校で学習したその他の表現技法等を組み合わせることに挑戦させたい。

これまでの生徒の学習活動の様子から、短歌の創作を楽しみ、興味・関心を喚起できるよう働き掛けたい。



## 6 指導観

「言語文化」A書くこと(1)イに該当する「学習過程」及び(2)言語活動例に基づいた学習指導を行う。言語活動については、『伊勢物語』を参考に、自分の思いや体験を短歌によって表現する活動を行う。「書くこと」の指導事項を本単元の目標としているため、教材に関する学習は手本として扱うための読み取り程度にとどめ、生徒が短歌創作に力を注げるような指導計画とした。本単元では、既習のA書くこと(1)イの「学習過程」を明示して取り組ませることで考えを形成し、短歌を効果的に表現する力を身に付けさせたい。学習ワークシートの使用、教員の作成例等を示すことで各過程の取組に対する不安を取り除きたい。

本単元の言語活動では、生徒が高校生活で感じたこと発見したこと等を短歌で表現する活動を軸とし、短歌の表現技法として「本歌取り」を用いる。「本歌取り」は名歌の語句・発想・趣向などを取り入れる技法である。しかし、本単元では生徒の実態と現代短歌の創作の観点から、「本歌」を歌詞や詩歌、キャッチフレーズ等から引用する。これによって表現技法への挑戦が容易なものとなり、生徒が思いや考えを自由に表現でき、読み手に鮮やかな情景を想像させる効果が期待できる。ただし、短歌に使用する言葉や「本歌」に関しては、我が国の言語文化に根差したより適切な表現に基づいたものを用いることに留意したい。

## 7 研究主題との関連

本単元では、A書くこと(1)イの「学習過程」と(2)アに示されている「感じたことや発見したことを短歌で表現する活動」に基づいた学習活動を行う。短歌を創作する活動を通して、自分の「考え」を「効果的に表現しようとする力」を養いたい。「学習過程」に沿った学習活動を行う中で、画像を活用したり、文字の大きさや書体、背景の色等を工夫したりすること（視覚的工夫）によって、生徒が自分の考えを整理し、深めると同時に、生徒の体験や思い、考えが読み手に効果的に伝えるためのものとした。

なお、視覚的工夫（書体等）に関しては、中学校学習指導要領（平成20年度告示）第2章 各教科第1節 国語 第2 各学年の目標及び内容〔第3学年〕〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(2)アにおいて既習である。

## 8 単元の指導と評価の計画

### (1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①本歌取りや見立てなど我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。(1)オ)	①「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。(A(1)イ)	①学習の見通しを持って、短歌を書くことを通して、自分の思いや考えを深め、効果的な表現の仕方を工夫し、読み手を意識しながら粘り強く作品全体を整え捉え直そうとしている。

(2) 単元の全体計画（5時間扱い 本時2／5）

時	主たる学習活動	評価規準	評価方法等
1	○学習の進め方を捉え、本単元の学習の見通しを持つ。本単元の「学習過程」の説明を聞く。(一斉) ○『伊勢物語 芥川』を読み、内容と文章構成、参考となる表現等を確認する。(一斉) ○文章の種類、構成、展開、文体、描写の効果を確認する。(一斉) ○短歌のテーマ(「私の日常～高校生活～」)を伝え、使用する表現技法(「本歌取り」)について確認する。(一斉)	文章の内容を理解し、我が国の言語文化に特徴的な表現技法とその効果について理解している。[知識・技能]①	「観察」 <u>行動の観察</u> ・我が国の言語文化に特徴的な表現技法とその効果について理解を深めているかを観察する。
2 本時	○短歌の題材に基づいて表現する内容、構成や展開、文体、描写、語句等を検討する。(視覚的工夫の写真は必要に応じて使用する) <u>構成の検討</u> ・ <u>考えの形成</u> (個人) ○短歌の題材や内容に基づき、「本歌」を選出する。 <u>構成の検討</u> ・ <u>考えの形成</u> (個人)	題材に基づいて表現したい内容や構成、展開、表現方法等について検討している。[思考・判断・表現]①	「観察、記述の確認」 <u>行動の観察、学習ワークシート</u> ・表現したい内容や構成、展開、表現方法等をワークシートに書き出しているかを机間指導により観察し、記述を確認する。
3 ・ 4	○前時の活動でまとめたものを基に短歌を創作し、詞書を書く。(Pages使用) <u>記述</u> (個人) ○完成後、短歌が読み手に伝わりやすくなるよう視覚的工夫を施す。 <u>記述</u> (個人)	検討したものを整理し、自分の思いや考えが明確に伝わるよう短歌の表現を工夫している。[思考・判断・表現]①	「記述の確認」 <u>学習ワークシート、作品</u> ・書き出したものを整理し、自分の思いや考えが読み手に明確に伝わるよう短歌の表現を工夫しているかを確認する。
5	○班員の作品を読んで感想や助言を伝え合う。 <u>推敲</u> ・ <u>共有</u> (班) ○作品を捉え直し、必要に応じて修正する。(個人)	互いに短歌・詞書を読み感想や助言を述べ合うことで、自分の表現を捉え直し改善しようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]①	「記述の分析」 <u>学習ワークシート、作品</u> ・班員の感想や助言を踏まえて作品を捉え直し、作品をよりよいものにしようとしているかを分析する。

9 本時の計画

(1) 目標 短歌創作に向け、自分の体験や思いが伝わる構成や表現の仕方を検討する。

[思考力, 判断力, 表現力等]

(2) 本時の指導に当たって

前時の学習活動で、『伊勢物語 芥川』の概要をつかみ、文章の種類、構成、展開、文体、描写語句等の効果について確認した上で、本単元の短歌の題材、表現技法について確認している。

本時では短歌創作に向け、「学習過程」の「構成の検討」「考えの形成」を軸とした学習活動を行う。授業前半では「題材」に基づいて表現したい内容を検討する。後半では短歌の題材やまとめた内容を基に構成、展開、描写等をワークシートに書き出し、本歌を選ぶ。後半の活動に関してはワークシート掲載順序にこだわらず取り組む。これによって次時の短歌を創作する（「記述」）活動に向け、自分の思いや考えを整理し構成や表現方法を検討することで構想を練る活動とする。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される生徒の反応	形態	指導上の留意点	評価
導入 5分	<p><b>1 課題の確認, 本時の流れの説明</b></p> <p>○本時では短歌を創作するために<b>構成の検討</b>・<b>考えの形成</b>を行う。</p> <p>(1) 短歌のテーマを「私の日常～高校生活～」について、表現する内容を考え、考えたことを整理したり、深めたりする活動を行う。</p> <p>(2) 「(1)」でまとめたことに基づいて本歌を選ぶ。</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の流れをプロジェクタで示す。</li> <li>・<b>構成の検討</b>・<b>考えの形成</b>の学習を行うことを伝える。</li> <li>・本時でまとめたことが、次時の短歌創作と詞書の材料となることから、しっかりとまとめておくことを促す。</li> </ul>	
展開 35分	<p><b>2 テーマに基づいて表現する題材, 内容を考える。</b></p> <p>○テーマは「私の日常～高校生活～」</p> <p>ワークシートに基づいて、短歌として表現したい題材と、題材の説明文（一文）を書く。</p> <p>◆迷いながらも書こうとしている。</p> <p>◆作成例を参考に書き出している。</p> <p>◆題材の説明文を書いている。</p> <p><b>3 題材や考えた内容に基づいて構成, 展開, 描写等について考え本歌を選ぶ。</b></p> <p>○内容を表現するにふさわしい構成、展開、描写等についてワークシートに思いつく限り書いてみる。</p> <p>◆よりよい作品となるように、自分なりに描写を考えたり構想を練ったりしている。</p> <p>◆自分で内容や表現の方法等を考えた上で、周囲の生徒と相談している。</p> <p>○ワークシートに書いた内容に基づいて、本歌を選ぶ。短歌で表現したい内容がより明</p>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクタで学習活動の具体と教員の作成例を投影する。</li> <li>・箇条書きを可とする。</li> <li>・思い起こすヒントを得たい場合には、スマートフォン内の画像等を参考にしても構わないことを伝える。</li> <li>・題材の説明文は、5W1Hに基づいて書くよう指示する。</li> <li>・プロジェクタで学習活動の具体と教員の作成例を投影する。</li> <li>・構成、展開、描写、短歌創作はワークシートのどこから考えても構わないことを伝える。</li> <li>・読み手を想定した適切な言葉、表現とするよう留意させる。</li> <li>・ワークシートに基づいて「本歌取り」の説明をする。</li> <li>・本歌はインターネットを活用して検索してもよい。</li> </ul>	[思考・判断・表現] ① 表現したい内容や構成、展開、表現方法等を学習ワークシートに書き出しているかを観察し、記述を確認する。 (観察, 学習ワークシート)

	<p>確になる本歌を、多くの人を知る歌詞や詩歌、キャッチフレーズ等から引用する。必要に応じてインターネットで検索する。</p> <p>◆どれを本歌として取り入れるべきか検討している。</p> <p>◆周囲の生徒と相談している。</p>	個人	<p>・自分で考える時間を十分に取った上で、周囲に相談する時間も与える。</p>	
<p>終 結 5 分</p>	<p><b>4 本時の振り返りと次時の予告</b></p> <p>○本時は短歌を創作するために<b>構成の検討</b>・<b>考えの形成</b>を行った。</p> <p>○次回は、<b>記述</b>の活動を行うこととなる。具体的には、今日書き出したことを整理し、それを基にして短歌を創作し、詞書を書く。</p>	一 斉	<p>・次時の活動への見通しを持たせる。</p>	

(4) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	十分満足できる (A)	努力を要する生徒への手立て (C)
思考・判断・表現	自分の体験や思いを効果的に伝えるために内容、構成、展開、描写について書き出し、本歌の選出をしている。	自分の体験や思いをより効果的に伝えるために内容、構成、展開、描写について書き出し、本歌の選出に加え、その他の表現技法の検討もしている。	題材を基に連想される自分の体験や思いについて、読み手に何をどのような表現で伝えたいのかを一つ一つ整理して検討させる。

(5) 準備物

- ①教師：教科書、学習ワークシート、タブレット端末（教員用、生徒用）、プロジェクタ
- ②生徒：教科書、授業用ファイル、筆記用具

(6) 板書計画

<p>『伊勢物語』を読み、短歌を創作しよう</p> <p><b>テーマ</b></p> <p>「私の日常～高校生活～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■『伊勢物語 芥川』 概要、構成、表現技法等を確認</li> <li>■「構成の検討」</li> <li>■「考えの形成」 短歌の題材に基づいて表現する内容、構成、展開、描写等を検討、「本歌」決定</li> <li>■「記述」短歌創作(+詞書)</li> <li>■「推敲」</li> <li>■「共有」 作品を読み合い感想を伝え合う。 助言から作品を捉え直す。</li> </ul>	<p>『伊勢物語』を読み、短歌を創作しよう</p> <p>◎短歌創作に向け、自分の体験や思いが伝わる構成や表現の仕方を検討しよう。</p>
---	---

(7) 学習ワークシート

どこから考えてもOK

『伊勢物語 芥川』 短歌創作ワークシート

学籍番号)

(氏名)

『伊勢物語』を読み、短歌を創作しよう

1 テーマ「私の日常〜高校生活〜」に基づいて内容、描写、構成、展開等を検討する。

1 短歌として表現したい「題材」を挙げてみよう。

(1) 「私の日常〜高校生活〜」について、「題材」の候補となるものを挙げてみる。(単語、箇条書き 可)

※短歌の題材に決定したものに○印

(2) 選んだ題材に関して、一文の説明文を作ってみよう。

【例】いつ だれ(何)が どこで 何を(に) なぜ どうした をできるだけ使って  
部活動のとき 私が 体育館で 先輩の姿を 懂れているから 見つめた。

2 描写、構成、展開 等について考えよう。

● 物事の様子や場面、行動や心情などについて、読み手が具体的に想像できるような表現を考える。

※表現技法「枕詞」「序詞」「掛詞」「縁語」「見立て」「体言止め」「倒置」等

● 「五音」と「七音」の表現にしてみる。

● 並び替えながら構成を考える。

● 「本歌取り」「必須事項」について考える。

「本歌」を選ぶに当たって

- ・ 自分の思いや考えを、読み手に分かりやすく伝えられるものを選ぶ。
- ・ 歌詞、詩、キャッチフレーズ、マンガや小説のせりふ 等から引用する。
- ・ みんなが知っているものを「本歌」とする。

(「本歌取り」は、「みんながよく知っている表現を引用する」のが約束)

・ 「本歌」は、「短歌のどの部分で使ってもよいが、一句〜二句の範囲とする。

・ 基本は五字か七字としたいが、表現上必要であればこれを下回っても、上回ってもかまわない。

・ 「本歌」は原典(引用のものになったもの)からアレンジしてもかまわない。

【例】「こんなこといいなできたらいいな」 ↓ 「こんなこと できたらいいな」

(アニメ「ドラえもん」主題歌より)

● 試しに短歌を創作してみる。